

**平成25年度  
芦屋市文化振興基本計画評価報告書**

**芦 屋 市**





# 文化振興審議会意見書

文化振興審議会 会長 中川幾郎

## 〔はじめに〕

平成24年5月に策定された芦屋市文化振興基本計画に基づく取組を評価するため、平成25年度は全3回に渡り文化振興審議会を開催し、進捗状況等について慎重に審議を重ねてきた結果、芦屋市の文化の振興が総合的に推進されるよう当審議会として次に掲げるとおり意見を申し上げます。  
また、これらの意見を参考にし、今後の施策や事業展開に活かしていただくよう要望する。

## 〔1 全体総括〕

### 【評価票のあり方について】

- ◆平成25年度に作成した評価票は暫定版とし、引き続き評価票のあり方を検討すること。
- ◆将来的にコスト分析をするため、コスト情報等を記載できるよう評価票のあり方を検討すること。

### 【評価方法について】

- ◆評価の目的(進行管理としての評価もしくは政策の評価)を明確にすること。
- ◆同一の事業であっても毎年やるべきことを計画どおりに実施したことを評価するのか、新たにチャレンジしたことを評価するのか、考え方を整理すること。

### 【事業展開について】

- ◆施策や事業が、今後の社会や市民にどのような影響を与えるかを考慮し、目指すべき将来像に向けた取組を行えているかどうか、イメージを明確に持つよう努めること。

## 〔2 各施策（施策の柱）に対する意見〕

### ① 市民の自主的な文化活動の推進

- ◆市民が芦屋市で生まれ育ったことが良かったと思うことにつながるよう、優れた演劇やオーケストラ等に触れることができるような施策を実施することが望ましい。

### ② 固有の文化資源を活用した地域づくりの推進

- ◆文化や生涯学習の担当以外に、地域づくりとして県や関係団体、他部署等が実施する事業と連携した取組が評価対象項目となるよう努めること。
- ◆青少年の文化活動の充実に向けた事業の増加を期待する。
- ◆文化財について、学校教育や一般の講座で活用するなど、文化財を保護することの意味や効果等を実感し理解する機会が増加するよう努めること。

### ③ 文化の振興と再生を図るための環境づくりの推進

- ◆情報弱者への対応についての記載が見受けられないため、取組がなされていないのであれば、今後検討すること。
- ◆また、福祉医療と連携したユニバーサルな表現活動等についても、文化の環境づくりの対象として評価項目とするよう努めること。

## 〔3 各取組に対する意見〕

### 【ルナ・ホールの取組について】

- ◆今後の目標は現状維持とするのではなく、拡大という方向性が望ましい。

### 【公民館について】

- ◆公民館運営審議会で審議されている内容が、評価指標となるよう検討すること。

### 【美術博物館の取組について】

- ◆展示事業にかかる経費について、入場者数約17,000人の入場料収入ではまかなうことが難しいと思われる。取組について工夫の余地があると思われる。

### 【谷崎潤一郎記念館の取組について】

- ◆課題である谷崎ファン以外の方に向けた取組を展開することが望ましい。

### 【生涯学習課の取組について】

- ◆『芦屋市文化遺産継承・活性化事業』及び『社会教育団体等に対する補助金』については、課題を踏まえ、今後の目標を現状維持とするのではなく、考え方を見直すこと。
- ◆『文化団体相互の連携の促進』について、ホームページ上の取組以外に、団体交流が促進されるような取組を展開することが望ましい。

#### [ 4 計画の進行管理についての意見 ]

##### 【進行管理としての評価について】

- ◆ 進行管理として評価するのであれば、『ヒト・モノ・カネ・情報』を有効活用するため、これらの評価項目を追加すること。
- ◆ 事業の目的が同一のものをスクラップ・アンド・ビルドできるよう目的の共有に努めること。

##### 【指標について】

- ◆ 回数、人数などのアウトプットではなく、効果測定を可能とするため目標値は対象とする分母に対する比率(パーセンテージ)とするよう努めること。
- ◆ 講座や講演会について、講座の実施回数を指標とするのではなく、入場者数とすることが望ましい。
- ◆ アウトプットである来場者数の記載の有無について、全体的に統一するよう努めること。
- ◆ 指標や目標がない項目については、極力数値を記入するよう努めること。

##### 【広告・広報効果を指標の対象とする項目について】

- ◆ さくらまつり、あしや秋まつり、芦屋市民文化賞については広告・広報効果を指標とするよう検討すること。

##### 【自己評価について】

- ◆ 計画や法令等で実施することが義務付けられているような取組について、計画通り実施したことをA評価とすることなどについては検討が必要と思われる。(新しくチャレンジしたことが評価の対象となるよう検討すること。)

##### 【課題及び今後のビジョンについて】

- ◆ 数値目標以外に、定性的な部分について特に重視したい取組を記載するよう努めること。

#### [ 5 その他 ]

- ◆ 各施策や事業が、ターゲットに対して効果的に展開されているかどうかを把握する必要があると思われる。
- ◆ バリアフリー化など、政策ではなく対策と考えられる事業については、評価対象とされるかどうか再度検討すること。

基本理念  
基本目標

基本理念 基本目標	施策の柱	① 市民の自主的な文化活動の推進	
	基本的な施策	ア 市民の文化活動の充実	P. 2
		1 文化に対する関心、理解を深めるための普及啓発	
		2 市民の鑑賞機会の提供	
		3 市民の文化活動や発表する機会の確保	
		4 文化活動に関する情報の提供	
	基本的な施策	イ 高齢者、障がい者等の文化活動の充実	P. 10
		5 高齢者、障がい者等の文化活動の充実	
	基本的な施策	ウ 青少年の文化活動の充実	P. 12
		6 青少年の鑑賞機会の提供	
		7 青少年の文化活動の体験機会の提供	
	基本的な施策	エ 学校教育における文化活動の充実	P. 14
		8 文化に関する体験学習等の充実	
	基本的な施策	オ 人材の育成に関する支援	P. 15
		9 創造的活動の成果を発表する機会の確保	
	基本的な施策	カ 文化団体の育成に関する支援	P. 16
		10 文化団体の育成に関する支援、連携の推進	
	施策の柱	② 固有の文化資源を活用した地域づくりの推進	
	基本的な施策	ア 地域の伝統的な文化の保存等	P. 17
		11 伝統的な文化の普及啓発、鑑賞機会等の提供	
		12 文化財保護の充実等	
	基本的な施策	イ 国内及び国外との交流の促進	P. 20
		13 国際交流の推進	
		14 多文化理解の推進	
	基本的な施策	ウ 地域の文化資源の活用	P. 22
		15 文化資源を活用した地域の活性化	
	基本的な施策	エ 良好な景観の形成	P. 23
		16 良好な景観の形成	
	施策の柱	③ 文化の振興と再生を図るための環境づくりの推進	
	基本的な施策	ア 市の文化施設の充実	P. 24
	17 市の文化施設の機能の充実		
	18 運営方法の点検等		
基本的な施策	イ 学校施設、公共施設の活用	P. 26	
	19 学校施設、公共施設の文化活動の場としての活用		
基本的な施策	ウ 情報の収集等	P. 27	
	20 情報の収集等		
	21 利便性の向上		
	22 文化にかかわる資料、作品、情報等の保存		
基本的な施策	エ 文化活動に対する支援	P. 29	
	23 活動している個人や団体に対して、より重点的・効果的な支援の充実		
基本的な施策	オ 文化活動に対する民間支援活動の促進	P. 30	
	24 文化活動に対する個人や企業等からの寄附や支援の促進		
基本的な施策	カ 顕彰の実施	P. 31	
	25 顕彰の実施		

# 文化振興基本計画評価票

基本理念	1 文化の担い手である市民一人一人の自主性及び創造性が尊重されなければならない。
	2 歴史及び風土に培われてきた地域の伝統的な文化が、市民の共通の財産としてはぐくまれ、将来にわたり引き継がれるよう配慮されなければならない。
	3 文化を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であることにかんがみ、市民が等しく文化活動を行うことができるような環境の整備が図られなければならない。
	4 文化の多様性が尊重されるとともに、地域における多様な文化の共生が図られるよう配慮されなければならない。
	5 文化が地域間における相互理解を深める上で重要な役割を果たすことにかんがみ、文化に関する情報を広く国内外に発信するなど、文化交流が積極的に推進されなければならない。

基本目標	1 ゆとりや潤いなどの実感できる心豊かな市民生活の実現
	2 個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくりの実現

## 施策の柱 ① 市民の自主的な文化活動の推進

### 基本的な施策 ア 市民の文化活動の充実

#### 【主な施策概要】

- 1 文化に対する関心、理解を深めるための普及啓発
  - ◆ 市の文化施設での文化に関する講座、講演会等の開催
- 2 市民の鑑賞機会の提供
  - ◆ 文化団体との連携による鑑賞機会の提供
  - ◆ 市の文化施設での公演事業の実施
  - ◆ 市立図書館での展示事業の実施
  - ◆ 市立美術博物館での美術作品の展覧会の開催、文化に関する資料等の展示、展覧会等の開催
  - ◆ 谷崎潤一郎記念館、富田碎花旧居での文学資料に関する展示、展覧会等の開催
- 3 市民の文化活動や発表する機会の確保
  - ◆ 芦屋市展の開催
  - ◆ 文化団体の創作、発表等の活動への助成等による支援
  - ◆ 伝統芸能、舞台芸術作品等の公演などへの共催による支援
  - ◆ 市の文化施設での創作、練習、発表等の活動の場の提供
  - ◆ 市の文化施設の利用環境の整備
- 4 文化活動に関する情報の提供
  - ◆ 広報紙、ホームページ等様々な媒体による文化活動のための情報の提供

### 【担当課評価】

S：計画以上の成果をあげた B：ある程度達成できた（80から50%）  
A：達成できた（100～80%） C：達成できていない（50～0%）

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況		掲載広報	連携した団体	指標		自己評価	課題	今後のビジョン	
				24年度	25年度			H24実績	今後の目標				
生涯学習課	長岡一美	1	歴史に触れあう機会の提供	【講演会「清盛の時代と芦屋・阪神地方の考古学」の開催】 市民を対象に、市民センターにおいて、平清盛と芦屋の関わりについての講演会を開催した。				講演会・講座の実施回数	1回	現状維持	A	参加者が歴史や文化財に関心がある方に偏る。  【市の歴史や文化財をテーマにした講演会・講座】 今後も、市の歴史や文化財についてテーマを見出し、講演会・講座を開催していきたい。その際には、歴史ファンを対象にした極めて専門的なものではなく、市民が興味をもち、理解できるわかりやすいテーマや内容にすることを心がける。	
生涯学習課	長岡一美	1	学習機会の提供	【公民館講座「芦屋川の魅力を探る」の開催】 市民を対象に、公民館において、平成24年4月1日に市指定文化財になった芦屋川の文化的景観に関する6回の講座を開催した。		市広報紙	市内部	講演会・講座の実施回数	6回	現状維持	B	一般の方々が参加しやすいテーマを見出すこと。	同上

【担当課評価】

S：計画以上の成果をあげた B：ある程度達成できた（80から50%）  
A：達成できた（100～80%） C：達成できていない（50～0%）

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況		掲載広報	連携した団体	指標		自評	己価	課題	今後のビジョン
								H24実績	今後の目標				
生涯学習課	長岡 一美	1	歴史に触れあう機会の提供	【公民館講座「芦屋から大坂城の謎を解く」の開催】市民を対象に、公民館において、芦屋にある徳川大坂城東六甲採石場と大坂城の関係についての8回の講座を開催した。	市広報紙	市内部	講演会・講座の実施回数	8回	現状維持	A	一般の方々が参加しやすいテーマを見出すこと。	【市の歴史や文化財をテーマにした講演会・講座】 今後も、市の歴史や文化財についてテーマを見出し、講演会・講座を開催していきたい。その際には、歴史ファンを対象にした極めて専門的なものではなく、市民が興味を持ち、理解できるわかりやすいテーマや内容にすることを心がける。	
生涯学習課	長岡 一美	1	学習機会の提供（富田碎花の世界観の体験）	【富田碎花講座】市民が富田碎花に親しむために、富田碎花顕彰会の主催により、富田碎花の著作詩集の講読講座が月1回開催されている。	市広報紙	市内部	講座実施回数	10回	現状維持	B	詩という文学に親しもうとする方の減少	引き続き、広報で市民にお知らせすることで、参加者の増加を期待したい。	
生涯学習課	長岡 一美	2	学習機会の提供（富田碎花の世界観の体験）	【富田碎花旧居の展示替え】市民が富田碎花について知ることができるように、富田碎花旧居の展示室等で展示を行っており、週2回（水曜日と日曜日）、無料で公開している。富田碎花顕彰会によって年2回の展示替えが行われている。	市広報紙		展示替え回数	2回	現状維持	B	従来、顕彰会において展示替を行ってきたが、会員の高齢化により、展示替えの立案、実施を行う方を見出す必要があるの	美術博物館学芸員に、富田碎花の資料をまとめた方がいるので、その方の協力を得て、年2回程度の展示替えを行っていきけるようにしていきたい。	
生涯学習課	長岡 一美	3	人材育成（市内の文化遺産を継承している団体）	【芦屋市文化遺産継承・活性化事業の実施】市が実施計画を策定し、実行委員会が平成25年度文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした地域活性化事業）交付を申請した。事業を実施する実行委員会の構成団体は、鳳輦・だんじり・将棋・能楽・華道の団体である。補助金額は、9,492千円。	市広報紙		事業の申請件数	1件	現状維持	実施中	補助事業がいつまで継続するのかが不明である。	今後も補助事業が続くのなら、継続して市内の文化遺産を継承する団体に対して活動を支援できるように、事業を継続したい。	
生涯学習課	長岡 一美	3	市民活動の活性化	【社会教育関係団体等に対する補助金】文化活動事業補助として、コミスク10団体及び社会教育関係団体等11団体に補助金を交付している。（コミスク2,548千円・社会教育関係団体等764千円）		外部団体	補助交付金額	3,312千円	現状維持	A	交付団体及び交付金額の固定化	補助金が交付目的に従い、公正かつ効率的に使用されていることを確認するため、交付団体に対して会計監査を実施し、交付金額について必要があれば精査していく事が必要。	
生涯学習課	長岡 一美	3	発表の場の提供	【コミスク合同文化展】年1回、コミスク連絡協議会と共催でコミスク合同文化展を開催している。9コミスクが日頃の活動の中で作成している作品を、一般市民向けに展示し、コミスク活動のPRを行っている。H24は、11/30～12/2で274名の市民が来場された。	市広報紙・まちナビ		来場者数	274人	増加	A	開催内容の固定化	現在は、作品の展示のみを行っているが、来場された方が参加出来る様な催しを追加するなど、文化展の開催方法に工夫をしていきたい。	

【担当課評価】

S : 計画以上の成果をあげた B : ある程度達成できた (80から50%)  
 A : 達成できた (100~80%) C : 達成できていない (50~0%)

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況		掲載広報	連携した団体	指標	H24実績	今後の目標	自評	己価	課題	今後のビジョン
生涯学習課	長岡 一美	4	歴史に触れ合う機会の提供	【文化財関連事業の情報提供】 事業を市民に周知するために、文化財関連事業を開催する際には、事前に広報あしや及びホームページに案内を掲載している。	市広報紙			広報あしや及びホームページの掲載率	100%	現状維持	A	文化財関連事業を一人でも多くの市民に周知したい。	今後も文化財関連事業を開催する際には、一人でも多くの市民に知っていただけるように、広報あしや及びホームページに案内を掲載していく。必要であれば、新聞等のメディアも活用したい。	
生涯学習課	長岡 一美	4	学習情報の提供	【文化活動のための情報提供】 教育委員会に登録を承認された社会教育関係団体について、市民が情報を得られるよう、市のHP上で団体の詳細を掲載している。HPを見た市民が団体に直接問い合わせが出来るように、承諾の得られた団体の連絡先を掲載している。また、広報紙においても「市民の広場」に団体のイベント記事を掲載している。	市広報紙、HP			広報媒体数	2媒体	増加	B	高齢者等HPを見られない市民への情報提供	高齢者等HPを見られない市民向けの情報提供の方法を検討する必要がある。	
市民センター	高田 浩志	1・2・3・4	鑑賞機会の提供	ルナ・ホール事業（落語2回、映画6回、音楽2回、ジャズ、狂言、ファッションショー）13事業、5,897人（平成24年度）	ローカルネット、大学、地方紙、市広報紙			事業数 参加人数	13事業 5,897人	現状維持	A		今後も継続して実施していく。 芦屋の魅力を発掘・発信している事業を実施していく。	
市民センター	高田 浩志	1・2・3・4	発表の場の提供	①市民ギャラリー 事業内容などは、10月10日から11月11日までの間、14団体が参加し（平成25年度）、市民センター内で展示をすることにより、日頃の成果を発表する。 来場者数は、例年、5,000人程度。	市広報紙			参加団体数 来場者数	12団体 5,116人	現状維持	A		今後も継続して実施していく。	
市民センター	高田 浩志	1・2・3・4	発表の場の提供	②市民ステージ 事業内容などは、10月13日から11月10日までの間、11団体が参加し（平成25年度）、ルナ・ホールなどで公演することにより、日頃の成果を発表する。 来場者数は、例年、4,000人程度。	市広報紙			参加団体数 来場者数	11団体 3,161人	現状維持	A		同上	



【担当課評価】

S : 計画以上の成果をあげた B : ある程度達成できた (80から50%)  
 A : 達成できた (100~80%) C : 達成できていない (50~0%)

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況		掲載広報	連携した団体	指標		自評 己価	課題	今後のビジョン
								H24実績	今後の目標			
市民センター	高田 浩志	1・2・3・4	発表の場の提供	③市民絵画展 (第27回, 平成25年度) 平成25年度は, 出品者が52人 (男30人, 女22人, 1人1品), 出品者の平均年齢は70歳を超える。 5日間の観覧者は, 547人。 アンケート結果では, とても良かった・良かったという回答が80パーセントとなっている。出品者と観覧者もそれぞれ70歳以上と60歳以上であることが特徴的。	市広報紙		出品者数 観覧者数	50人 583人	現状維持	A		今後も継続して実施していく。
市民センター	高田 浩志	1・2・3・4	人材育成	④芦屋夢ステージ 芦屋にふさわしい芸術文化活動と芦屋市での舞台芸術の発展に寄与する市民プロデューサーを育成する事業。 平成25年度は, 7月に選考会を実施し, 企画書と予算書の提出があった2団体から1団体を選考した。 実際のステージの開催は, 平成26年3月29日の予定。事業実施に要する経費を100万円を限度として助成する。	市広報紙		参加団体数	2団体		A		実際のイベントは良いものができあがっていると評価しているが, 単なる費用の助成という形にもなりつつある。今後, あり方の検討が必要である。
市民センター	高田 浩志	1・2・3・4	情報の提供	【文化活動に関する情報の提供】 ⑤広報紙, ホームページに事業情報を掲載						A		今後も継続して実施していく。 芦屋の魅力を発掘・発信する事業を実施していく。
公民館	高田 浩志	1・2・3・4	学習機会の提供	【文化に対する関心, 理解を深めるための普及啓発】 さまざまな学習機会を提供する。(平成24年度) 公民館講座(18講座, 受講者数 1,137人, 延べ出席者数 4,678人) 講演会・セミナー等(11回, 延べ参加人数 1,343人) NHK公開セミナー (NHKとの共催事業, 2回, 延べ参加人数 1,175人) 公民館音楽会 (5回, 延べ参加人数 423人)	市広報紙	市内部, 他施設, PTA	講座数 参加者数	36講座 7,619人	現状維持	A		同上
図書館	木村 守彦	1	学習機会の提供	【読書講演会の開催】 「古代ギリシャの食文化～パン2題 マーザとオペリアス～」というテーマで関西外国語大学教授・丹下和彦氏に講演していただいた。古代ギリシャ文学と当時の食べものについての興味深い内容であり, 質疑応答も活発に行われた。読書につなげてもらえるように参考図書等多数会場に用意し, 参加者が手に取れるよう工夫した。参加人数: 32名。	市広報紙		参加者数	32人	増加 (参加者数50人)	B	参加者が少ない。	今後は, 芦屋の郷土史やゆかりのある文学についてなど, 地域に関連した内容の講座を企画していきたい。

【担当課評価】

S : 計画以上の成果をあげた B : ある程度達成できた (80から50%)  
 A : 達成できた (100~80%) C : 達成できていない (50~0%)

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況	掲載広報	連携した団体	指標			自評 己価	課題	今後のビジョン
							入館者数	H24実績	今後の目標			
美術博物館	長岡 一美	1・2・3・4	鑑賞機会の提供	<p>【展示事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・没後40年 吉原 治良 展</li> <li>・アートピクニックvol.2 呼吸する美術展</li> <li>・近代の芦屋 展</li> <li>・第30回 芦屋市造形教育展 他8事業 観覧者総数17,470人</li> </ul> <p>※ 平成25年度 芦屋市展実施予定</p> <p>◆ 事業毎に利用者アンケートを実施し、住民ニーズの把握に努めると共に自己評価を行い、今後の事業展開に反映する等市民に親しまれる美術博物館を目指している。</p> <p>◆ 広報紙、ホームページの活用のみならず、ツイッターを立ち上げる等、より細かく幅広い情報の発信に努めている。</p>	全国ネット、全国紙、ローカルネット、地方紙、市広報紙、あしやトライあんぐる、まちなび	市内部、他施設、市民、ボランティア、他団体	入館者数	17,470人	増加	A	事業展開に係る経費は一部、入館料収入が充てられるため、収益性の高い事業を実施する傾向になる。	公立文化施設としての役割を果たしつつ、入館者数の増大に繋がる斬新で創造的な事業展開及びその関連事業（講座・講演、ギャラリー・トーク等）の充実を図っていきたい。
美術博物館	長岡 一美	1・2・3・4	学習機会の提供	<p>【教育普及活動】</p> <p>① 展覧会関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わくわくバスツアー「創作現場を訪れる」</li> <li>・ギャラリー・トーク</li> <li>・見学会「芦屋の寺社巡礼」</li> </ul> <p>他13事業 参加者総数792人</p> <p>② 講演、講座等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会「欧米でも注目される日本のアールブリュット、その作品と作家の全容」</li> <li>・講演会「心に残る芦屋のむかしばなし」</li> <li>・講演会「つみとられた果実—その真相に迫る」 他9事業 参加者総数246人</li> </ul> <p>◆ 事業毎に利用者アンケートを実施し、住民ニーズの把握に努めると共に自己評価を行い、今後の事業展開に反映する等市民に親しまれる美術博物館を目指している。</p> <p>◆ 広報紙、ホームページの活用のみならず、ツイッターを立ち上げる等、より細かく幅広い情報の発信に努めている。</p>	地方紙、市広報紙	ボランティア、他団体	参加者数	1,038人	増加	A	同上	同上
美術博物館	長岡 一美	1・2・3・4	コミュニティの形成	<p>【その他事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・春の芦屋アートバザール</li> <li>・だんじりのお囃子を楽しもう</li> <li>・ミュージアムコンサート 東日本大震災被災者への追悼「詩の朗読をおりませで“花・は・咲く”」</li> </ul> <p>他3事業 参加者総数4,707人</p> <p>◆ 事業毎に利用者アンケートを実施し、住民ニーズの把握に努めると共に自己評価を行い、今後の事業展開に反映する等市民に親しまれる美術博物館を目指している。</p> <p>◆ 広報紙、ホームページの活用のみならず、ツイッターを立ち上げる等、より細かく幅広い情報の発信に努めている。</p>	地方紙	市民	参加者数	4,707人	増加	A	同上	同上

【担当課評価】

S : 計画以上の成果をあげた B : ある程度達成できた (80から50%)  
 A : 達成できた (100~80%) C : 達成できていない (50~0%)

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況	掲載広報	連携した団体	指標		自評 己価	課題	今後のビジョン
							H24実績	今後の目標			
谷崎潤一郎記念館	長岡 一美	1 2 3 4	鑑賞機会の提供 学習機会の提供	【展示事業】 ・春の特別展…文豪・谷崎潤一郎の先覚「源氏」「細雪」「鍵」 ・夏の通常展…「谷崎潤一郎 人と作品」 ・秋の特別展…「陰翳礼讃」の世界 ・冬の通常展…「谷崎潤一郎 人と作品」 ◆ 広報紙、ホームページ等による情報提供、読売新聞への谷崎関連の記事掲載 ◆ 「谷崎潤一郎新聞」の発行 ◆ 講義室利用者への良好な環境提供	全国紙、地方ネット、地方紙、市広報紙、あしやトライあんぐる		入館者数	増加	A	入館者の大半が従来より、谷崎文学に親しんでいる方であるため、新たな入館者の開拓が必要	公立文化施設としての役割を果たしつつ、入館者数の増大に繋がる創造的な事業展開及びその関連事業（講座・講演、ギャラリー・トーク等）の充実を図っていきたい。
谷崎潤一郎記念館	長岡 一美	1 2 3 4	鑑賞機会の提供 趣味・余暇の充実	【ロビーギャラリー】 ・押し絵展「雅趣あふれる創作押し絵の世界」 ・ガラス工芸展「光の抒情を求めて」 ・日本画展「花信風」他7事業 ◆ 広報紙、ホームページ等による情報提供、読売新聞への谷崎関連の記事掲載 ◆ 「谷崎潤一郎新聞」の発行 ◆ 講義室利用者への良好な環境提供	全国紙、市広報紙		入館者数	増加	A	多様化・高度化した館利用者の学習ニーズ	同上
谷崎潤一郎記念館	長岡 一美	1 2 3 4	学習機会の提供 コミュニティの形成	【ロビーギャラリートーク】 ・ガラス工芸の美の秘密 ・作家によるギャラリートーク 計5事業 参加人数251人 ◆ 広報紙、ホームページ等による情報提供、読売新聞への谷崎関連の記事掲載 ◆ 「谷崎潤一郎新聞」の発行 ◆ 講義室利用者への良好な環境提供	全国紙、市広報紙		参加者数	251人 増加	A	同上	同上
谷崎潤一郎記念館	長岡 一美	1 2 3 4	学習機会の提供 趣味・余暇の充実	【文学館講座】 ・源氏物語講座 ・和泉式部日記を読む講座 ・俳句講座 他13事業 受講者数2,703人 ◆ 広報紙、ホームページ等による情報提供、読売新聞への谷崎関連の記事掲載 ◆ 「谷崎潤一郎新聞」の発行 ◆ 講義室利用者への良好な環境提供	全国誌、市広報紙		受講者数	2,703人 増加	A	入館者の大半が従来より、谷崎文学に親しんでいる方であるため、新たな入館者の開拓が必要	同上
谷崎潤一郎記念館	長岡 一美	1 2 3 4	学習機会の提供 趣味・余暇の充実	【1日特別講座】 ・縫わずに出来る 布バッグ1日講座 ・フランスのクロスステッチ刺繍1日講座 他2講座 参加人数71人 ◆ 広報紙、ホームページ等による情報提供、読売新聞への谷崎関連の記事掲載 ◆ 「谷崎潤一郎新聞」の発行 ◆ 講義室利用者への良好な環境提供	全国誌、市広報紙		参加者数	71人 増加	A	多様化・高度化した館利用者の学習ニーズ	同上

【担当課評価】

S : 計画以上の成果をあげた B : ある程度達成できた (80から50%)  
 A : 達成できた (100~80%) C : 達成できていない (50~0%)

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況	掲載広報	連携した団体	指標		自評 己価	課題	今後のビジョン	
							H24実績	今後の目標				
谷崎潤一郎記念館	長岡 一美	1 2 3 4	学習機会の提供 趣味・余暇の充実	【朗読会】 ・第1回「細雪」の世界に 浸るⅡ<四季の情景> ・第2回谷崎と上方言葉と 女たち「卍」から「細雪」 へ ・第3回文学の美意識を読 む「陰翳礼讃」と「蓼喰う 虫」 ・第4回足に魅せられた文 豪 フェティシズム×マゾ ヒズム ◆ 広報紙, ホームページ 等による情報提供, 読売新 聞への谷崎関連の記事掲載 ◆ 「谷崎潤一郎新聞」の 発行 ◆ 講義室利用者への良好 な環境提供	全国紙, 市広報紙	市民	参加者 数	142人	増加	A	入館者の大半が従 来より, 谷崎文学 に親しんでいる方 であるため, 新た な入館者の開拓が 必要	公立文化施設としての 役割を果たしつつ, 入 館者数の増大に繋がる 創造的な事業展開及び その関連事業(講座・ 講演, ギャラリー・ トーク等)の充実を 図っていきたい。
谷崎潤一郎記念館	長岡 一美	1 2 3 4	学習機会の提供 趣味・余暇の 充実	【展示関連イベント・講 演】 ・「陰翳礼讃」の世界にひ たる現地講座 ・特別レクチャー「震災と 文学」 ・特別講演 谷崎潤一郎× 村上春樹～震災と芦屋をめ ぐって 他4事業 参加人 数173人 ◆ 広報紙, ホームページ 等による情報提供, 読売新 聞への谷崎関連の記事掲載 ◆ 「谷崎潤一郎新聞」の 発行 ◆ 講義室利用者への良好 な環境提供	全国紙, 市広報紙		参加者 数	173人	増加	A	同上	同上
谷崎潤一郎記念館	長岡 一美	1 2 3 4	鑑賞機会の提供 学習機会の提供	【特別イベント】 ・「細雪」上映会 ・朗読シアター By あお ぞらドラマカンパニー ・林真理子講演会「源氏物 語と私」 参加人数1,351 人 ◆ 広報紙, ホームページ 等による情報提供, 読売新 聞への谷崎関連の記事掲載 ◆ 「谷崎潤一郎新聞」の 発行 ◆ 講義室利用者への良好 な環境提供	全国紙, 市広報紙	ボラン ティア	参加者 数	1,351人	増加	A	同上	同上
谷崎潤一郎記念館	長岡 一美	1 2 3 4	鑑賞機会の提供 学習機会の提供	【特別行事】 ・残月祭 参加人数241人 ◆ 広報紙, ホームページ 等による情報提供, 読売新 聞への谷崎関連の記事掲載 ◆ 「谷崎潤一郎新聞」の 発行 ◆ 講義室利用者への良好 な環境提供	全国紙, 市広報紙	市内 部, ボラ ンティア	参加者 数	241人	増加	A	同上	同上

## 【担当課評価の集計】

【主な施策概要】	取組数	評 価				指 標			
		S	A	B	C	設定割合	増加	減少	現状維持
1 文化に対する関心，理解を深めるための普及啓発	24	0	21	3	0	96%	13	0	10
2 市民の鑑賞機会の提供	20	0	19	1	0	95%	12	0	7
3 市民の文化活動や発表する機会の確保	22	0	21	0	0	100%	14	0	8
4 文化活動に関する情報の提供	21	0	20	1	0	95%	13	0	7

# 文化振興基本計画評価票

基本理念	1 文化の担い手である市民一人一人の自主性及び創造性が尊重されなければならない。
	2 歴史及び風土に培われてきた地域の伝統的な文化が、市民の共通の財産としてはぐくまれ、将来にわたり引き継がれるよう配慮されなければならない。
	3 文化を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であることにかんがみ、市民が等しく文化活動を行うことができるような環境の整備が図られなければならない。
	4 文化の多様性が尊重されるとともに、地域における多様な文化の共生が図られるよう配慮されなければならない。
	5 文化が地域間における相互理解を深める上で重要な役割を果たすことにかんがみ、文化に関する情報を広く国内外に発信するなど、文化交流が積極的に推進されなければならない。

基本目標	1 ゆとりや潤いなどの実感できる心豊かな市民生活の実現
	2 個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくりの実現

## 施策の柱 ① 市民の自主的な文化活動の推進

### 基本的な施策 イ 高齢者、障がい者等の文化活動の充実

#### 【主な施策概要】

#### 5 高齢者、障がい者等の文化活動の充実

- ◆ 市の文化施設のバリアフリー化の推進
- ◆ 市の文化施設での託児支援等の取組
- ◆ 市の文化施設での高齢者、障がい者の観覧料等の軽減

#### 【担当課評価】

S：計画以上の成果をあげた B：ある程度達成できた（80から50%）  
A：達成できた（100～80%） C：達成できていない（50～0%）

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況		掲載広報	連携した団体	指標		自己評価	課題	今後のビジョン
								H24実績	今後の目標			
高齢福祉課	木野隆	5	鑑賞機会の提供 趣味・余暇の充実 市民活動の活性化	①【高齢者証明書の発行】 ・対象者（市内在住の65歳以上の方） ・発行人数（249人） ・利用場所（県下・市内の指定公共施設、公共的施設、興行施設を割引料金で利用できる。）	市広報紙	市内部、他施設			A			
高齢福祉課	木野隆	5	鑑賞機会の提供 趣味・余暇の充実 市民活動の活性化	②【敬老の日】 市内の指定公共施設、公共的施設の無料利用・対象者（市内在住の65歳以上の方）	市広報紙	市内部			A			
都市計画課	東実	5	市民活動の活性化	芦屋市交通バリアフリー基本構想に基づく、重点整備地区内での公共施設等のバリアフリー化の状況について、学識経験者、市民団体等を委員とする推進連絡会において、事業者および施設管理者からの実施状況報告ならびに課題等の意見交換を行った。		市内部、他施設、市民、NPO、他団体	推進連絡会の実施回数	1回	現状維持	A	施設・移動経路のバリアフリー化	基本構想において課題としていたバリアフリー化事業についてはほぼ実施されつつあるため、今後新たな課題等があれば対応が図れるよう、推進連絡会を継続して実施する。
市民センター	高田浩志	5	安全の確保	ルナ・ホール内のバリアフリー化を進めるため、階段のノンスリップ部分を白く塗装したほか、足元灯の改良や客席から舞台上がる階段に手すりを設置した。					A		今後も必要に応じて、施設改修を進めていく。施設が古く、また、内装が黒いため、全体的に暗い。楽屋から舞台への動線に階段があるが、改良は困難である。	

## 【担当課評価】

S：計画以上の成果をあげた B：ある程度達成できた（80から50%）  
A：達成できた（100～80%） C：達成できていない（50～0%）

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況	掲載広報	連携した団体	指標			自評 己価	課題	今後のビジョン
							指標	H24実績	今後の目標			
公民館	高田 浩志	5	学習機会の提供	<p>●60歳以上の市民を対象に学習の機会を提供し、教養を高め、活発な交流を実現する。</p> <p>①芦屋川カレッジ 必修コース 36回、選択コース（うるおい・探訪）各15回、平均出席率90%、平均年齢 67歳 男性 45人、女性 57人</p> <p>②カレッジ聴講生 男性 58人、女性 53人、平均出席率 68%</p> <p>③カレッジ大学院 男性 42人、女性 67人、平均出席率 84%</p>	市広報紙	芦屋川カレッジ学友会	受講者数	322人	現状維持	A		今後も継続して実施する。
図書館	木村 守彦	5	学習機会の提供	<p>【障がい者サービスの実施】 視覚・聴覚等に障がいのある方に向けて、点字図書・録音図書の貸出や対面朗読サービスを行った。平成24年度の利用件数は186件。</p>			利用件数	186件	増加（200件）	B	障害者サービスの周知	障がいのある方が気軽に図書館を利用できるよう、今後も要望に応じていきたい。
美術博物館	長岡 一美	5	鑑賞機会の提供	<p>【展覧会】ーアートピック vol.2 呼吸する美術ー ・美術教育を受けていない作家、障がいがあるとされる表現者など様々なフィールドで活躍する作家の作品を展示</p> <p>◆ 高齢者、障がい者等の観覧料の軽減 ◆ 「老人の日」「敬老の日」の高齢者入館料免除 ◆ 気軽に幅広く芸術文化に親しんでいただくよう「市民無料の日」を設定</p>	全国紙、地方ネット、地方紙、市広報紙	他施設、ボランティア、他団体	入館者数	（再掲）17,470人	増加	A	幅広く、市民一人ひとりが心豊かに文化を享受できる場所の提供	<p>【人に優しい美術博物館】 ・高齢者には意欲を持ってなお学べる生涯学習の場となるよう、また障がい者には展示方法や車椅子の利用方法等に配慮した、人に優しい美術博物館を目指したい。</p>
谷崎潤一郎記念館	長岡 一美	5	鑑賞機会の提供 学習機会の提供 趣味・余暇の充実	<p>◆ 高齢者、障がい者等の観覧料の軽減 ◆ 「老人の日」「敬老の日」の高齢者入館料免除</p>	市広報紙		入館者数	（再掲）2,181人	増加	A	同上	生涯に亘る多様な学習活動の一環として、谷崎文学を分野別やレベル別の体系化した各種講座やセミナー等を開催していきたい。

## 【担当課評価の集計】

【主な施策概要】	取組数	評価				指標			
		S	A	B	C	設定割合	増加	減少	現状維持
5 高齢者、障がい者等の文化活動の充実	8	0	7	1	0	63%	3	0	2

# 文化振興基本計画評価票

<b>基本理念</b>	1 文化の担い手である市民一人一人の自主性及び創造性が尊重されなければならない。 2 歴史及び風土に培われてきた地域の伝統的な文化が、市民の共通の財産としてはぐくまれ、将来にわたり引き継がれるよう配慮されなければならない。 3 文化を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であることにかんがみ、市民が等しく文化活動を行うことができるような環境の整備が図られなければならない。 4 文化の多様性が尊重されるとともに、地域における多様な文化の共生が図られるよう配慮されなければならない。 5 文化が地域間における相互理解を深める上で重要な役割を果たすことにかんがみ、文化に関する情報を広く国内外に発信するなど、文化交流が積極的に推進されなければならない。
-------------	---

<b>基本目標</b>	1 ゆとりや潤いなどの実感できる心豊かな市民生活の実現 2 個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくりの実現
-------------	--

<b>施策の柱</b>	<b>① 市民の自主的な文化活動の推進</b>
-------------	-------------------------

<b>基本的な施策</b>	<b>ウ 青少年の文化活動の充実</b>
---------------	----------------------

【主な施策概要】

**6 青少年の鑑賞機会の提供**

- ◆ 市の文化施設での子どもたちを対象とした鑑賞事業の実施
- ◆ 市立図書館での絵本展示等の実施
- ◆ 市立美術博物館での人形劇の実施

**7 青少年の文化活動の体験機会の提供**

- ◆ 市立図書館での子どもや親子を対象とした読書に親しむための事業の実施
- ◆ 市立美術博物館での文化を体験する機会の提供や体験型ワークショップの実施

【担当課評価】

S : 計画以上の成果をあげた B : ある程度達成できた (80から50%)  
 A : 達成できた (100~80%) C : 達成できていない (50~0%)

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況		掲載広報	連携した団体	指標		自己評価	課題	今後のビジョン
				H24実績	今後の目標							
公民館	高田 浩志	6	学習機会の提供	●市民の学習ニーズ及び教育方針に基づいて、教室等を開催する。(平成24年度) ①公民館こども教室18回、延べ参加人数401人 ②幼稚園に出かける「幼児教育講座」9回、延べ出席者数480人	市広報紙	ボランティア	受講者数	881人	現状維持	A		今後も継続して実施する。幼稚園に出かける「幼児教育講座」は整理し、公民館で実施する形に変更する。
図書館	木村 守彦	7	本の楽しさを伝える	【絵本の会・こどもおはなしの会の実施】 子どもたちに本の楽しさを知ってもらうために、毎週土曜日に「絵本の会」「こどもおはなしの会」を開催した。絵本の会は3歳以上と5歳以上、おはなしの会は小学校1年生以上と3年生以上に分けて行うなど、子どもの年齢に合わせた内容となるよう配慮した。また、保護者にも絵本やおはなしに親しんでもらえるよう、春と秋に、親子で参加できる機会を設けた。参加人数：絵本の会837人、こどもおはなしの会670人	ボランティア	ボランティア	参加者数	絵本の会837人 こどもおはなしの会670人	増加(絵本の会900人) (こどもおはなしの会740人)	A	参加者の低年齢化	図書館で本と出会い、読書の楽しさを知ってもらえるよう、今後も職員とおはなし・読み聞かせボランティアと協力して研鑽を積み、より充実した内容にしていきたい。



【担当課評価】

S：計画以上の成果をあげた B：ある程度達成できた（80から50%）  
 A：達成できた（100～80%） C：達成できていない（50～0%）

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況		掲載広報	連携した団体	指標		自評 己価	課題	今後のビジョン
								H24実績	今後の目標			
美術博物館	長岡 一美	6・7	学習機会の提供 伝統芸能等に 触れ合う機会	【ワークショップ等】 ・クロージングイベント 「あたりまえのこと（新聞紙と袋）」 ・伝統文化 こども能楽体験教室 ・ワークショップ「あしや歴史マップ作り」他9事業 参加者総数624人 【その他】 ・人形劇フェスタ 参加者数約90人	地方紙、市広報紙	市民、他団体	参加者数	624人	増加	A	次世代を担う子供たちが伸び伸びと文化を享受できる場所の提供	子どもを対象にした子どもに分かり易い展示内容や解説の仕方を工夫することによって、気軽にアートに親しむきっかけとなることを目指す。
美術博物館	長岡 一美	6	学習機会の提供	谷崎文学により一層親しんでもらうため、「谷崎潤一郎新聞」を各学校に配布。	全国紙、市広報紙		配布部数（市内中学校）	1,800部	現状維持	A	谷崎文学の新たな学習者の拡大	青少年を対象にした分かり易い展示内容や解説の仕方を工夫することによって、谷崎文学を気軽に親しむきっかけとなることを目指す。

【担当課評価の集計】

【主な施策概要】	取組数	評価				指標			
		S	A	B	C	設定割合	増加	減少	現状維持
6 青少年の鑑賞機会の提供	3	0	3	0	0	100%	1	0	2
7 青少年の文化活動の体験機会の提供	2	0	2	0	0	100%	2	0	0

# 文化振興基本計画評価票

基本理念	1 文化の担い手である市民一人一人の自主性及び創造性が尊重されなければならない。
	2 歴史及び風土に培われてきた地域の伝統的な文化が、市民の共通の財産としてはぐくまれ、将来にわたり引き継がれるよう配慮されなければならない。
	3 文化を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であることにかんがみ、市民が等しく文化活動を行うことができるような環境の整備が図られなければならない。
	4 文化の多様性が尊重されるとともに、地域における多様な文化の共生が図られるよう配慮されなければならない。
	5 文化が地域間における相互理解を深める上で重要な役割を果たすことにかんがみ、文化に関する情報を広く国内外に発信するなど、文化交流が積極的に推進されなければならない。

基本目標	1 ゆとりや潤いなどの実感できる心豊かな市民生活の実現
	2 個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくりの実現

## 施策の柱 ① 市民の自主的な文化活動の推進

### 基本的な施策 エ 学校教育における文化活動の充実

#### 【主な施策概要】

#### 8 文化に関する体験学習等の充実

- ◆ 学校への芸術家等派遣事業の実施
- ◆ 本物の舞台芸術体験事業の実施
- ◆ 学校と文化施設、芸術家等や文化団体と連携した教育の推進
- ◆ 子どもの文化活動を支援する人材（ボランティア）リストの作成

#### 【担当課評価】

S：計画以上の成果をあげた B：ある程度達成できた（80から50%）  
A：達成できた（100～80%） C：達成できていない（50～0%）

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況		掲載広報	連携した団体	指標		自評 自己 評価	課題	今後のビジョン	
								H24実績	今後の目標				
学校教育課	北野章	8	鑑賞機会の提供	中学校では、毎年、全中学1年生が県の「わくわくオーケストラ」事業に参加し、県の芸術文化ホールで、本物のクラシック音楽に触れる体験を行っている。また、25年度は、文化庁の文化芸術体験事業を活用し、2中学校で、洋画家による講話や実技指導、オーケストラの鑑賞の事業を企画、実施している。				定例の文化事業以外に芸術鑑賞会等を実施した学校数	3校	増加	A	県や市の定例事業については、毎年の実施が定着しており、実施状況が年度ごとに変化することはないが、文化庁等が企画する事業については、計画的・主体的に実施していくことが難しい。	市や学校が単独で、芸術鑑賞に係る行事を毎年、実施していくことは難しいが、今後も国や県事業を活用して、児童生徒が本物の芸術に触れる機会を確保していきたい。
生涯学習課	長岡一美	8	人材育成	【トライやるウィークでの文化財保護業務の体験】 トライやるウィークにおいて、毎年、市内の中学校4校から各校3名ずつを受け入れ、中学生が遺跡の発掘調査や出土品の整理等、文化財保護活動を体験している。中学生からは、市内にたくさん文化財があることをはじめて知ったことや、文化財保護の仕事の大変さを知ったこと等の感想を得ている。				受け入れ中学校数	4校	現状維持	A	仕事に従事することを通じて文化財保護の大切さを学べるようなカリキュラムの設定	【学校教育との連携】 今後もトライやるウィークで中学生を受け入れ、文化財保護の大切さを教えていきたい。また、小・中学生が遺跡や出土品を学習できるように、出前授業や三条文化財事務所の見学受け入れなどを積極的に行っていきたい。

#### 【担当課評価の集計】

【主な施策概要】	取組数	評価				設定割合	指標		
		S	A	B	C		増加	減少	現状維持
		8 文化に関する体験学習等の充実	2	0	2		0	0	100%

# 文化振興基本計画評価票

基本理念	1 文化の担い手である市民一人一人の自主性及び創造性が尊重されなければならない。
	2 歴史及び風土に培われてきた地域の伝統的な文化が、市民の共通の財産としてはぐくまれ、将来にわたり引き継がれるよう配慮されなければならない。
	3 文化を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であることにかんがみ、市民が等しく文化活動を行うことができるような環境の整備が図られなければならない。
	4 文化の多様性が尊重されるとともに、地域における多様な文化の共生が図られるよう配慮されなければならない。
	5 文化が地域間における相互理解を深める上で重要な役割を果たすことにかんがみ、文化に関する情報を広く国内外に発信するなど、文化交流が積極的に推進されなければならない。

基本目標	1 ゆとりや潤いなどの実感できる心豊かな市民生活の実現
	2 個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくりの実現

## 施策の柱 ① 市民の自主的な文化活動の推進

### 基本的な施策 オ 人材の育成に関する支援

#### 【主な施策概要】

#### 9 創造的活動の成果を発表する機会の確保

- ◆ 市民絵画展、芦屋市展、芦屋市造形教育展の開催

#### 【担当課評価】

S：計画以上の成果をあげた B：ある程度達成できた（80から50%）  
A：達成できた（100～80%） C：達成できていない（50～0%）

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況	掲載広報	連携した団体	指標		自評 己価	課題	今後のビジョン
							H24実績	今後の目標			
市民センター	高田 浩志	9	発表の場の提供	市民絵画展（第27回、平成25年度）（ア再掲）	市広報紙		出品者数 50人 観覧者数 583人	現状維持	A		今後も継続して実施していく。
美術博物館	長岡 一美	9	発表の場の提供	・芦屋市造形教育展（同時開催：昔の暮らし 飲む・食べるー昔の人の食文化ー展）観覧者数4,796人 ・芦屋市展（2年に1度）観覧者数2,990人 ・芦屋写真展 観覧者数2,990人 ・園児の作品展示 キャンドルを飾ってクリスマスを楽しむ 参加者数121人	全国紙・地方ネット・地方紙・市広報紙	市内部、他課、市民、ボランティア、他団体	入館者数 （再掲） 7,907人	増加	A	幅広く、市民一人ひとりが心豊かに文化を享受できる場所の提供	気軽に美術博物館に足を運ぶ機運を醸成する。

#### 【担当課評価の集計】

【主な施策概要】	取組数	評価				設定割合	指標		
		S	A	B	C		増加	減少	現状維持
		9 人材の育成に関する支援	2	0	2		0	0	100%

# 文化振興基本計画評価票

基本理念	1 文化の担い手である市民一人一人の自主性及び創造性が尊重されなければならない。
	2 歴史及び風土に培われてきた地域の伝統的な文化が、市民の共通の財産としてはぐくまれ、将来にわたり引き継がれるよう配慮されなければならない。
	3 文化を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であることにかんがみ、市民が等しく文化活動を行うことができるような環境の整備が図られなければならない。
	4 文化の多様性が尊重されるとともに、地域における多様な文化の共生が図られるよう配慮されなければならない。
	5 文化が地域間における相互理解を深める上で重要な役割を果たすことにかんがみ、文化に関する情報を広く国内外に発信するなど、文化交流が積極的に推進されなければならない。

基本目標	1 ゆとりや潤いなどの実感できる心豊かな市民生活の実現
	2 個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくりの実現

## 施策の柱 ① 市民の自主的な文化活動の推進

### 基本的な施策 カ 文化団体の育成に関する支援

#### 【主な施策概要】

#### 10 文化団体の育成に関する支援、連携の推進

- ◆ 文化団体の活動に対する後援
- ◆ 文化団体相互の連携の促進
- ◆ 市の文化施設での社会教育関係団体等の使用料の軽減

#### 【担当課評価】

S：計画以上の成果をあげた B：ある程度達成できた（80から50%）  
A：達成できた（100～80%） C：達成できていない（50～0%）

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況		掲載広報	連携した団体	指標		自評 己価	課題	今後のビジョン
				24年度	25年度			H24実績	今後の目標			
市民参画課	福島 貴美	10	団体の育成	文化に関する事業を行う団体に対して、芦屋市の後援名義の使用を承認し、文化振興を支援した。				後援名義承認数	76件	現状維持	A	今後も、継続的に事業を行っていきたい。
教委管理課	萩原 裕子	10	市民活動の活性化	【芦屋市教育委員会後援名義の使用承認】 教育、学術、文化及びスポーツに関する事業を行う団体に対し、芦屋市教育委員会の後援名義の使用を承認することにより、その事業を奨励し、教育、学術、文化及びスポーツ等の振興に寄与した（H24承認件数124件）				後援名義の使用承認件数	124件	増加	A	市民の自主的な活動の推進に寄与できていると考えており、現在のところ特に問題はない。  引き続き迅速かつ適正な事務処理に努めたい。
生涯学習課	長岡 一美	10	団体の交流による団体の活発化	【文化団体相互の連携の促進】 教育委員会に登録を承認された社会教育関係団体について、市のHP上で団体の詳細を掲載している。HP上で他団体の情報を得ることにより、団体相互の連携を図っている。	市広報紙	ホームページ					B	HPに詳細を掲載しているだけでは、社会教育関係団体がどれだけ相互に自発的な連携活動をしているか確認ができない。  社会教育関係団体向けの研修を実施するなど、団体同士が顔を合わせる機会を作ること、また、出前講座や学校支援活動において社会教育関係団体の活用を図ることにより、団体相互のネットワークを構築する。

#### 【担当課評価の集計】

【主な施策概要】	取組数	評価				指標			
		S	A	B	C	設定割合	増加	減少	現状維持
10 文化団体の育成に関する支援、連携の推進	3	0	2	1	0	67%	1	0	1

# 文化振興基本計画評価票

基本理念	1 文化の担い手である市民一人一人の自主性及び創造性が尊重されなければならない。
	2 歴史及び風土に培われてきた地域の伝統的な文化が、市民の共通の財産としてはぐくまれ、将来にわたり引き継がれるよう配慮されなければならない。
	3 文化を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であることにかんがみ、市民が等しく文化活動をすることができるような環境の整備が図られなければならない。
	4 文化の多様性が尊重されるとともに、地域における多様な文化の共生が図られるよう配慮されなければならない。
	5 文化が地域間における相互理解を深める上で重要な役割を果たすことにかんがみ、文化に関する情報を広く国内外に発信するなど、文化交流が積極的に推進されなければならない。

基本目標	1 ゆとりや潤いなどの実感できる心豊かな市民生活の実現
	2 個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくりの実現

## 施策の柱 ② 固有の文化資源を活用した地域づくりの推進

### 基本的な施策 ア 地域の伝統的な文化の保存等

#### 【主な施策概要】

#### 11 伝統的な文化の普及啓発、鑑賞機会等の提供

- ◆ 歴史を学ぶ機会の提供
- ◆ 伝統的な文化に触れる機会の提供
- ◆ 市の文化施設での能・狂言などの伝統芸能にかかわる公演の実施、発表機会の確保
- ◆ 市の文化施設での地域の歴史・文化などの講座、講演会や資料展示の充実

#### 12 文化財保護の充実等

- ◆ 文化財の保存・整備と活用
- ◆ 文化財の指定及び指定文化財に対する助成等の実施
- ◆ 市立美術博物館での文化財等に関する資料の収集、保管、展示及び研究
- ◆ 広報紙、ホームページ等による文化財に関する情報の提供

### 【担当課評価】

S : 計画以上の成果をあげた B : ある程度達成できた (80から50%)  
A : 達成できた (100~80%) C : 達成できていない (50~0%)

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況	掲載広報	連携した団体	指標		自評価	課題	今後のビジョン	
							H24実績	今後の目標				
生涯学習課	長岡一美	12	歴史に触れ合う機会の提供	【埋蔵文化財発掘調査報告書の刊行】 市内で発掘調査が実施された埋蔵文化財の記録を公表し将来に残すために、発掘調査報告書を平成24年度に3冊(各300部)刊行した。平成25年度には3冊(各300部)刊行する予定である。			埋蔵文化財発掘調査に対する刊行率	100%	現状維持	A	発掘調査を実施したものは、記録保存の目的を達成するために、確実に埋蔵文化財発掘調査報告書を刊行しなければならない。	今後も市内で実施された発掘調査の記録が公にされ、その内容が将来に確実に継承されるように、計画的に埋蔵文化財発掘調査報告書を刊行する。
生涯学習課	長岡一美	12	歴史に触れ合う機会の提供	【冊子「芦屋川の歴史」の刊行】 市民を対象に、平成24年4月1日に指定された市指定文化財の概要をわかりやすく解説した冊子2000部を刊行し、配布した。平成25年5月1日以降、すでに1200冊を配布しており、市民からは好評を得ている。			歴史・文化財に関連する冊子の刊行数	1刊	現状維持	A	市民に歴史・文化財を学んでいただくための冊子のテーマの選択、内容の工夫	市内の文化財の存在や内容について、市民に知っていただけるように、今後も、わかりやすい内容で継続して刊行する。
生涯学習課	長岡一美	12	歴史に触れ合う機会の提供	【リーフレット「徳川大坂城東六甲際石場」の刊行】 市民を対象に、市内の主要な遺跡をわかりやすく紹介するために、リーフレット「徳川大坂城東六甲際石場」を2000部刊行し、市民に配布した。	地方紙、市広報紙、あしやトライあんぐる		歴史・文化財に関連するリーフレットの刊行数	1刊	現状維持	A	同上	同上

【担当課評価】

S：計画以上の成果をあげた B：ある程度達成できた（80から50%）  
A：達成できた（100～80%） C：達成できていない（50～0%）

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況		掲載広報	連携した団体	指標		自評 己価	課題	今後のビジョン	
								H24実績	今後の目標				
生涯学習課	長岡 一美	12	歴史に触れ合う機会の提供	【遺跡の草刈】 市民が気持ちよく遺跡を見学できるように、市内遺跡の草刈を、会下山遺跡で3回、金津山古墳で2回、朝日ヶ丘遺跡で2回実施した。				年間の遺跡の草刈の実施回数	7回	現状維持	A	草刈の実施時期を見極め、遺跡が常に美しい状態に保たなければならない。  【遺跡の草刈】 常に遺跡が美しく整備され、見学者が気持ちよく見学できるように、今後も遺跡の草刈を実施する。	
生涯学習課	長岡 一美	12	歴史に触れ合う機会の提供	【会下山遺跡説明板の新設・取替え】 会下山遺跡の見学者が遺跡の概要を理解できるように、新たに4ヶ所、説明板を設けた。また、既存のもので古くなっている6ヶ所の説明板を取り替えた。				新設・取替えが必要な説明板の数	10ヶ所	現状維持	A	会下山遺跡では、経年により説明板が劣化するので、その都度取替えが必要である。  【遺跡の説明板の設置】 市内の遺跡の存在や内容を市民が理解できるように、わかりやすい内容で計画的に設置していく。	
生涯学習課	長岡 一美	12	歴史に触れ合う機会の提供	【会下山遺跡柵の修理】 会下山遺跡で見学者が遺跡を壊さないように、壊れていた柵を8ヶ所修理した。				修理が必要な箇所	8ヶ所	現状維持	A	会下山遺跡では、時々柵等が壊れるので、その都度修理が必要である。  【遺跡の修理】 見学者の安全及び遺跡の保護のため、会下山遺跡を中心に、遺跡に伴う施設等で破損したものは、随時修理する。	
生涯学習課	長岡 一美	12	歴史に触れ合う機会の提供	【市指定文化財の指定】 寺田遺跡出土の黄釉鉄絵陶器盤の本質的価値を評価し、市民の宝として将来に残されるように、市指定文化財に指定した。	市広報紙、ホームページ			指定文化財・登録文化財の指定・登録件数	1件	現状維持	A	市内の学術的価値の高い文化財を見出し、市民にその本質的価値を理解していただけるように、計画的に文化財を指定していく。 【広報あしやに文化財関連記事を掲載】 今後も、市民が郷土の歴史や文化財を知り、愛着を持てるよう、広報あしやを中心に市の歴史や文化財を紹介していく。	
市民センター	高田 浩志	11	伝統芸能等に触れ合う機会の提供	ルナ・ホール事業で、第17回芦屋能・狂言鑑賞の会（平成25年度、隔年）を実施する。	地方紙、市広報紙			観覧者数		現状維持	A	今後も継続して実施していく。	
公民館	高田 浩志	11	伝統芸能等に触れ合う機会の提供	●伝統的な文化の普及啓発、鑑賞機会等の提供 市民に学習成果の発表の場を提供するとともに文化意識の向上を図る。 常設展示(みんなで考えよう平和展、芦屋川の文化的景観&芦屋川の自然展、「海をめぐる芦屋の古代と平清盛の時代」展、「芦屋川スケッチ散歩」(芦屋川上流風景)展)、公民館ギャラリー 20グループ展示	地方ネット、地方紙、市広報紙	他課、ボランティア		展示回数	6回	公民館ギャラリー20グループ	現状維持	A	同上

【担当課評価】

S：計画以上の成果をあげた B：ある程度達成できた（80から50%）  
A：達成できた（100～80%） C：達成できていない（50～0%）

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況	掲載広報	連携した団体	指標			自評 己価	課題	今後のビジョン
							指 標	H24実績	今後の目標			
美術博物館	長岡一美	11, 12	学習機会の提供 歴史に触れ合う機会の提供	【展示事業】（再掲） ・中世・近世の芦屋展 ・近代の芦屋展 ・古代の芦屋一珠玉の出土品一展 観覧者数1,862人 ・芦屋巡礼の路一信仰のかたち一展 観覧者数956人 ・昔の暮らし 飲む・食べる一昔の人の食文化一展	地方ネット、地方紙、市広報紙		入館者数	(再掲) 2,818人	増加	A	幅広い領域での文化資源の保存、利活用等	地域固有の伝統や文化が更に重要性を増していく中で、引続き本市の歴史資料の収集・保存、文化財の保護、伝統文化の継承を図るとともに、これらを市民共通の資産として利活用していきたい。
美術博物館	長岡一美	11, 12	学習機会の提供 歴史に触れ合う機会の提供	【教育普及活動】（再掲） ・茶話会「心の中の芦屋」を語る ・見学会「芦屋のむかしばなしウオーキング」 ・見学会「芦屋神社と豆まき大会」 ・ギャラリー・トーク	地方紙、市広報紙		入館者数	(再掲) 94人	増加	A	「自由な学習の場」、「発展的な学習の場」、「市民交流の場」として機能させる。	同上
美術博物館	長岡一美	11, 12	学習機会の提供 歴史に触れ合う機会の提供	【講演、講座等】（再掲） ・講演会「心に残る芦屋のむかしばなし」 ・講演会「芦屋川と近代芦屋一芦屋川が育んだ文化的景観」 ・オープニング記念講演会「飛鳥・白鳳・天平文化期の芦屋一芦屋廃寺周辺の考古発見と仏教文化一」 ・古文書講座	地方紙、市広報紙		参加者数	(再掲) 104人	増加	A	同上	同上
谷崎潤一郎記念館	長岡一美	11	鑑賞機会の提供 学習機会の提供	【展示事業】（再掲） ・春の特別展…中央公論新社の秘蔵コレクションをはじめとして書籍、ポスター原画等約100点を展示 ・夏の通常展…谷崎潤一郎の生涯及び谷崎文学を、遺愛品、文学作品、書簡、写真などの資料を通して紹介 ・秋の特別展…「陰翳礼讃」の闇の中に構築する谷崎文学の美意識を文楽人形、能衣装、漆器、掛け軸などにより100点展示 ・冬の通常展…谷崎潤一郎の生涯及び谷崎文学を、遺愛品、文学作品、書簡、写真などの資料を通して紹介	全国紙、地方紙、市広報紙、あしやトライあんぐる		入館者数		増加	A	数多くの文化資料の保存、利活用等	文豪・谷崎潤一郎の業績をしのび、市民がその文学により一層親しむ場とするとともに、谷崎文学の研究の拠点として、引続き谷崎資料の収集・保存の継承を図り、これらを市民共通の資産として利活用していきたい。
谷崎潤一郎記念館	長岡一美	11	学習機会の提供 趣味・余暇の充実	【文学館講座】（再掲） ・源氏物語講座 ・和泉式部日記を読む講座 ・俳句講座 ・短歌講座 ・名作の愉しみ講座 他	全国紙、市広報紙		受講者数	(再掲) 2,703人	増加	A	「自由な学習の場」、「発展的な学習の場」、「市民交流の場」として機能させる。	同上
谷崎潤一郎記念館	長岡一美	11	鑑賞機会の提供 学習機会の提供	【特別行事】（再掲） ・残月祭 知られざる名作「蘆刈」 能楽、シンポジウム	全国紙、地方紙、市広報紙		参加者数	(再掲) 241人	増加	A	同上	同上

【担当課評価の集計】

【主な施策概要】	取組数	評 価				設定割合	指標		
		S	A	B	C		増加	減少	現状維持
		11 伝統的な文化の普及啓発、鑑賞機会等の提供	8	0	8		0	0	100%
12 文化財保護の充実等	10	0	10	0	0	100%	3	0	7

# 文化振興基本計画評価票

基本理念	1 文化の担い手である市民一人一人の自主性及び創造性が尊重されなければならない。
	2 歴史及び風土に培われてきた地域の伝統的な文化が、市民の共通の財産としてはぐくまれ、将来にわたり引き継がれるよう配慮されなければならない。
	3 文化を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であることにかんがみ、市民が等しく文化活動を行うことができるような環境の整備が図られなければならない。
	4 文化の多様性が尊重されるとともに、地域における多様な文化の共生が図られるよう配慮されなければならない。
	5 文化が地域間における相互理解を深める上で重要な役割を果たすことにかんがみ、文化に関する情報を広く国内外に発信するなど、文化交流が積極的に推進されなければならない。

基本目標	1 ゆとりや潤いなどの実感できる心豊かな市民生活の実現
	2 個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくりの実現

## 施策の柱 ② 固有の文化資源を活用した地域づくりの推進

### 基本的な施策 イ 国内及び国外との交流の促進

#### 【主な施策概要】

#### 13 国際交流の推進

- ◆ 海外の姉妹都市との交流事業

#### 14 多文化理解の推進

- ◆ 市立潮芦屋交流センターでの多文化理解や交流を促進するための事業の実施

#### 【担当課評価】

S : 計画以上の成果をあげた B : ある程度達成できた (80から50%)  
 A : 達成できた (100~80%) C : 達成できていない (50~0%)

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況	掲載広報 連携した団体	指標		自評 己価	課題	今後のビジョン	
						H24実績	今後の目標				
広報国際交流課	阪元 靖司	13	外国文化との交流	【モンテペロ市姉妹都市交流事業】 今年49回目を迎えた姉妹都市間の学生親善使節交換事業(2名派遣, 2名受入)を通して、市民の国際感覚と国際理解の醸成を図り、両市の友好を深めることができた。 ・派遣学生の国際人としての育成 ・ホームステイ受入による外国人との交流 事業の成果として、学生親善使節経験者の進路が海外派遣や国際交流をサポートする分野であることなど、国際社会に貢献する活動につながっている。	市広報紙、あしやトライあんどぐる、まちナビ	歴代の芦屋市とモンテペロ市の学生親善使節の人数	190人	増加	B	姉妹都市モンテペロ市について市民への周知	今後は、事業の充実とより多くの市民の参加を図り、国際理解・多文化共生の啓発に努める。
広報国際交流課	阪元 靖司	14	外国文化との交流	【潮芦屋交流センター事業の充実】 指定管理者により世界の料理教室や国際理解のためのセミナー等の事業を展開した。潮芦屋交流センターの利用者も増えている。	市広報紙、あしやトライあんどぐる、まちナビ	潮芦屋交流センター利用者数	41,161人	増加	B	潮芦屋交流センターについて市民への周知	今後は、ホームページや広報等で潮芦屋交流センターを積極的にアピールし市民に周知するとともに、事業の充実させてより多くの市民の参加を図り、国際理解・多文化共生の啓発に努める。



【担当課評価の集計】

【主な施策概要】	取組数	評 価				指 標			
		S	A	B	C	設定割合	増加	減少	現状維持
13 国際交流の推進	1	0	0	1	0	100%	1	0	0
14 多文化理解の推進	1	0	0	1	0	100%	1	0	0

# 文化振興基本計画評価票

<b>基本理念</b>	1 文化の担い手である市民一人一人の自主性及び創造性が尊重されなければならない。 2 歴史及び風土に培われてきた地域の伝統的な文化が、市民の共通の財産としてはぐくまれ、将来にわたり引き継がれるよう配慮されなければならない。 3 文化を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であることにかんがみ、市民が等しく文化活動を行うことができるような環境の整備が図られなければならない。 4 文化の多様性が尊重されるとともに、地域における多様な文化の共生が図られるよう配慮されなければならない。 5 文化が地域間における相互理解を深める上で重要な役割を果たすことにかんがみ、文化に関する情報を広く国内外に発信するなど、文化交流が積極的に推進されなければならない。
-------------	---

<b>基本目標</b>	1 ゆとりや潤いなどの実感できる心豊かな市民生活の実現 2 個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくりの実現
-------------	--

## 施策の柱 ② 固有の文化資源を活用した地域づくりの推進

### 基本的な施策 ウ 地域の文化資源の活用

**【主な施策概要】**

**15 文化資源を活用した地域の活性化**

- ◆ アートフリーマーケット等による芸術家等の育成支援
- ◆ 市の文化施設の地域のにぎわい創出等への活用
- ◆ 広報紙、ホームページ等による行事や祭りの開催など文化資源に関する地域情報の発信

**【担当課評価】**

S : 計画以上の成果をあげた B : ある程度達成できた (80から50%)  
 A : 達成できた (100~80%) C : 達成できていない (50~0%)

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況		掲載広報	連携した団体	指標		自己評価	課題	今後のビジョン
				24年度	25年度			H24実績	今後の目標			
市民参画課	福島 貴美	15	鑑賞機会の提供 発表の場の提供 コミュニティの形成 市民活動の活性化	芦屋さくらまつりへの支援・協力を通じて、多くの市民がにぎわう、まつりを開催した。また、音楽活動等を行う団体が、活動を発表する機会を提供した。		地方紙、市広報紙		参加人数	17,500人	現状維持	A	今後も、継続的に事業を行っていきたい。
経済課	近田 真	15	コミュニティの形成	「ひょうごツーリズム協会」(兵庫県観光協会)、「あにあん倶楽部」(阪神南県民局観光サイト)のホームページにおいて、「あしや秋まつり」の情報を、芦屋市内だけでなく、近隣市に情報発信している。				来場者数	6,000人	増加	B	どれだけの人が「ひょうごツーリズム協会」(兵庫県観光協会)、「あにあん倶楽部」(阪神南県民局観光サイト)を見て来場されたか確認が出来ない。  「国際特別都市建設連盟」の共通パンフレットに掲載するなど、県内だけでなく、広く芦屋の情報を発信していきたい。
美術博物館	長岡 一美	15	コミュニティの形成 市民活動の活性化	【その他事業】(再掲) ・春の芦屋アートバザール参加者数1,843人 ・秋の芦屋アートバザール参加者数2,252人		市民、他団体		参加者数	(再掲) 4,095人	増加	A	「自由な学習の場」、「発展的な学習の場」、「市民交流の場」として機能させる  子どもに限定した創作活動から生まれるふれあいを体感できる事業の展開(アートバザール子ども版)

**【担当課評価の集計】**

【主な施策概要】	取組数	評価				設定割合	指標		
		S	A	B	C		増加	減少	現状維持
15 文化資源を活用した地域の活性化	3	0	2	1	0	100%	2	0	1

# 文化振興基本計画評価票

基本理念	1 文化の担い手である市民一人一人の自主性及び創造性が尊重されなければならない。
	2 歴史及び風土に培われてきた地域の伝統的な文化が、市民の共通の財産としてはぐくまれ、将来にわたり引き継がれるよう配慮されなければならない。
	3 文化を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であることにかんがみ、市民が等しく文化活動を行うことができるような環境の整備が図られなければならない。
	4 文化の多様性が尊重されるとともに、地域における多様な文化の共生が図られるよう配慮されなければならない。
	5 文化が地域間における相互理解を深める上で重要な役割を果たすことにかんがみ、文化に関する情報を広く国内外に発信するなど、文化交流が積極的に推進されなければならない。

基本目標	1 ゆとりや潤いなどの実感できる心豊かな市民生活の実現
	2 個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくりの実現

## 施策の柱 ② 固有の文化資源を活用した地域づくりの推進

### 基本的な施策 エ 良好な景観の形成

#### 【主な施策概要】

#### 16 良好な景観の形成

- ◆ 全市を景観法で定める「景観地区」の指定による魅力ある景観づくりの推進
- ◆ 景観地区のうち、特徴のある景観を有する地域は「特別景観地区」の指定により、良好な景観の保全・育成の推進

#### 【担当課評価】

S：計画以上の成果をあげた B：ある程度達成できた（80から50%）  
A：達成できた（100～80%） C：達成できていない（50～0%）

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況		掲載広報	連携した団体	指標		自己評価	課題	今後のビジョン
				24年度	25年度			H24実績	今後の目標			
都市計画課	東実	16	良好な景観形成への理解及び意識の向上	24年4月1日より芦屋川沿岸地域を「芦屋川特別景観地区」に指定し、より実効性のある具体的な制限内容とすることにより、良好な景観の保全・育成を図っている。 また25年度中に「景観行政団体」となることを予定しており、現在兵庫県と協議を進めている。		全国紙		総合計画アンケートにおける満足度	0.9	増加	A	良好な景観形成を目的とした効果的な計画誘導を行うための諸制度の整理  景観形成基本計画の改定、法に基づく景観計画の策定、屋外広告物条例の策定、南芦屋浜を特別景観地区に指定

#### 【担当課評価の集計】

【主な施策概要】	取組数	評価				設定割合	指標		
		S	A	B	C		増加	減少	現状維持
		16 良好な景観の形成	1	0	1		0	0	100%

# 文化振興基本計画評価票

<b>基本理念</b>	1 文化の担い手である市民一人一人の自主性及び創造性が尊重されなければならない。 2 歴史及び風土に培われてきた地域の伝統的な文化が、市民の共通の財産としてはぐくまれ、将来にわたり引き継がれるよう配慮されなければならない。 3 文化を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であることにかんがみ、市民が等しく文化活動をすることができるような環境の整備が図られなければならない。 4 文化の多様性が尊重されるとともに、地域における多様な文化の共生が図られるよう配慮されなければならない。 5 文化が地域間における相互理解を深める上で重要な役割を果たすことにかんがみ、文化に関する情報を広く国内外に発信するなど、文化交流が積極的に推進されなければならない。
-------------	---

<b>基本目標</b>	1 ゆとりや潤いなどの実感できる心豊かな市民生活の実現 2 個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくりの実現
-------------	--

<b>施策の柱</b>	<b>③ 文化の振興と再生を図るための環境づくりの推進</b>
-------------	---------------------------------

<b>基本的な施策</b>	<b>ア 市の文化施設の充実</b>
---------------	--------------------

【主な施策概要】

<b>17 市の文化施設の機能の充実</b>
------------------------

- ◆ 文化施設の特性に応じた芸術家等の人材育成，教育プログラム，アウトリーチ活動等の実施
- ◆ 文化施設における参加体験型（ワークショップ）事業の実施
- ◆ 文化施設の特性に応じたプロデュース機能の充実及び活用の促進
- ◆ 文化施設の機能の向上

<b>18 運営方法の点検等</b>
--------------------

- ◆ 施設利用者を対象としたアンケート調査の実施
- ◆ 施設運営会議等による施設運営や実施事業の点検・検証

【担当課評価】

S：計画以上の成果をあげた B：ある程度達成できた（80から50%）  
 A：達成できた（100～80%） C：達成できていない（50～0%）

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況		掲載広報	連携した団体	指標	H24実績	今後の目標	自己評価	課題	今後のビジョン
				市広報紙	他施設								
生涯学習課	長岡 一美	17	学習機会の提供	【夏休み子ども教室の実施】小学生を対象に、公民館で勾玉作りの体験学習を実施した。子ども達は大変喜んでいた。		市広報紙	他施設	実施回数	2回	現状維持	A	いろいろな体験学習のメニューを設けた方がいい。	今後も、夏休みの時期に小学生を対象とした歴史に係る体験教室を実施し、子どもたちに歴史や文化財の大切さを学んでもらう。
公民館	高田 浩志	18	公民館運営に関する意見聴取	●公民館運営審議会 2回開催				実施回数	2回	現状維持	A		今後も継続して実施する。
図書館	木村 守彦	17	鑑賞機会の提供	【ライブラリーコンサート・ミニギャラリー展示の実施】芦屋市立図書館「友の会」の主催でライブラリーコンサートを実施した。平成24年度は3回実施、参加人数は約620人。また、図書館のエントランスのスペースを使って絵画や書などの展示を行い、来館者がアート作品に触れる機会をつくった。		地方紙，市広報紙	ボランティア	参加者数	620人	現状維持	A		今後もボランティア等の協力を得ながら、市民が教養を深めていけるようなイベントを実施していきたい。

## 【担当課評価】

S：計画以上の成果をあげた B：ある程度達成できた（80から50%）  
A：達成できた（100～80%） C：達成できていない（50～0%）

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況		掲載広報	連携した団体	指標			自評 己価	課題	今後のビジョン
								H24実績	今後の目標				
美術博物館	長岡 一美	17	学習機会の提供 人材育成	◆学芸員実習生受け入れ ◆参加体験型（ワークショップ）事業の展開 ーワークショップ「あしや歴史マップ作り」、ポスターを描こう、ひかりのテーブルオーナメントを作ろう 他ー		NPO、他団体	参加者数	(再掲) 629人	増加	B	「自由な学習の場」、「発展的な学習の場」、「市民交流の場」として機能させる	視覚のみならず、聴覚にも心地良い文化施設として、ミュージアムコンサート等を充実させていきたい。	
美術博物館	長岡 一美	18	鑑賞機会の提供 学習機会の提供	◆入館者数の増大に繋がる事業の展開及び快適空間創出のため、利用者アンケートを実施 ◆2月に1回程度、管理運営調整会議を開催し、施設運営や実施事業の検証を行い、より良い管理運営に繋げている。			アンケート回収率	1.50%	増加	B	公立文化施設としての役割を果たしつつ、見る側に新しい驚きや感動を与える事業展開	同上	
谷崎潤一郎記念館	長岡 一美	17, 18	鑑賞機会の提供 学習機会の提供	◆ 利用者のニーズを的確に把握し、より良い企画展を展開するため、利用者雑記帳を設置している。 ◆ 2, 3ヶ月に1回程度、管理運営調整会議を開催し、施設運営や実施事業の検証を行い、より良い管理運営に繋げている。			利用者雑記帳書き込み件数		増加	B	同上	文豪・谷崎潤一郎の業績をしのび、市民がその文学により一層親しむ場とするともに、谷崎文学の研究の拠点として、引続き谷崎資料の収集・保存の継承を図り、これらを市民共通の資産として利活用していきたい。	

## 【担当課評価の集計】

【主な施策概要】	取組数	評価				指標			
		S	A	B	C	設定割合	増加	減少	現状維持
17 市の文化施設の機能の充実	4	0	2	2	0	100%	2	0	2
18 運営方法の点検等	3	0	1	2	0	67%	2	0	0

# 文化振興基本計画評価票

基本理念	1 文化の担い手である市民一人一人の自主性及び創造性が尊重されなければならない。
	2 歴史及び風土に培われてきた地域の伝統的な文化が、市民の共通の財産としてはぐくまれ、将来にわたり引き継がれるよう配慮されなければならない。
	3 文化を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であることにかんがみ、市民が等しく文化活動を行うことができるような環境の整備が図られなければならない。
	4 文化の多様性が尊重されるとともに、地域における多様な文化の共生が図られるよう配慮されなければならない。
	5 文化が地域間における相互理解を深める上で重要な役割を果たすことにかんがみ、文化に関する情報を広く国内外に発信するなど、文化交流が積極的に推進されなければならない。

基本目標	1 ゆとりや潤いなどの実感できる心豊かな市民生活の実現
	2 個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくりの実現

## 施策の柱 ③ 文化の振興と再生を図るための環境づくりの推進

### 基本的な施策 イ 学校施設、公共施設の活用

#### 【主な施策概要】

#### 19 学校施設、公共施設の文化活動の場としての活用

- ◆ 学校施設、公共施設の文化活動の場としての活用

#### 【担当課評価】

S：計画以上の成果をあげた B：ある程度達成できた（80から50%）  
A：達成できた（100～80%） C：達成できていない（50～0%）

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況	掲載広報	連携した団体	指標	H24実績	今後の目標	自評 己価	課題	今後のビジョン
教委管理課	萩原 裕子	19	交流機会の促進	【学校園施設目的外使用の使用許可】 条例にさだめるところにより、学校園施設の目的外利用の許可を行った。 (H24許可件数：小73件、中122件、幼70件) ※コミスクの使用数は含まない。		N P O	目的外使用の許可件数	265件	現状維持	A	学校園の運営上支障がない範囲という原則をふまえて、いかに市民のかたに活動の場を提供できるかという調整を図ること。	引き続き迅速かつ適正な事務処理に努めたい。
生涯学習課	長岡 一美	19	コミュニティの形成	【コミュニティ・スクール】 小学校を地域住民に開放し、自主的な文化活動・スポーツ活動や地域活動を行っている。地域に開かれた事業として、夏祭りや文化発表会等を実施している。	市広報紙、HP					A	役員の固定化	各コミュニティ・スクールの委員長が集まる、コミュニティ・スクール連絡協議会を中心とし、全体の課題の共有や円滑な事業運営の為の支援、組織の人材育成等の研修等を引き続き支援していきたい。

#### 【担当課評価の集計】

【主な施策概要】	取組数	評価				指標			
		S	A	B	C	設定割合	増加	減少	現状維持
19 学校施設、公共施設の文化活動の場としての活用	2	0	2	0	0	50%	0	0	1

# 文化振興基本計画評価票

基本理念	1 文化の担い手である市民一人一人の自主性及び創造性が尊重されなければならない。
	2 歴史及び風土に培われてきた地域の伝統的な文化が、市民の共通の財産としてはぐくまれ、将来にわたり引き継がれるよう配慮されなければならない。
	3 文化を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であることにかんがみ、市民が等しく文化活動を行うことができるような環境の整備が図られなければならない。
	4 文化の多様性が尊重されるとともに、地域における多様な文化の共生が図られるよう配慮されなければならない。
	5 文化が地域間における相互理解を深める上で重要な役割を果たすことにかんがみ、文化に関する情報を広く国内外に発信するなど、文化交流が積極的に推進されなければならない。

基本目標	1 ゆとりや潤いなどの実感できる心豊かな市民生活の実現
	2 個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくりの実現

## 施策の柱 ③ 文化の振興と再生を図るための環境づくりの推進

### 基本的な施策 ウ 情報の収集等

#### 【主な施策概要】

- 20 情報の収集等
  - ◆ 広報紙、ホームページや電子メールを活用した文化情報の提供
  - ◆ 保存資料等の検索・閲覧等に関する情報通信技術の活用
- 21 利便性の向上
  - ◆ 施設利用予約システムの運用
- 22 文化にかかわる資料、作品、情報等の保存
  - ◆ 市の文化施設における収蔵資料等のデジタル化、データベース化の推進

#### 【担当課評価】

S：計画以上の成果をあげた B：ある程度達成できた（80から50%）  
A：達成できた（100～80%） C：達成できていない（50～0%）

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況	掲載広報	連携した団体	指標		自己評価	課題	今後のビジョン	
							H24実績	今後の目標				
市民センター	高田 浩志	21	貸室の予約管理	インターネットによる施設利用予約システムを引き続き運用した。また、その中でコンピュータシステムのファイアーウォールの更新をした。					A		今後も継続して実施していく。	
図書館	木村 守彦	21	図書館サービスの充実	【図書館コンピュータシステムの更新】平成24年度に図書館コンピュータシステムの更新を行った。これにより、インターネットによる資料検索時に予約候補の本が保存できるカート式の導入や利用者端末機の検索時に検索結果のレシートを予約票として受付可能にするなど、利用者の利便性を向上させた。	市広報紙		インターネット予約件数	97,000件	増加(98,000件)	A	利用の周知	今後の技術進歩や他市の図書館サービスの状況に留意しながら、より良いサービスが行えるシステム構築を目指す。
美術博物館	長岡 一美	20	鑑賞機会の提供 学習機会の提供	・広報紙、ホームページ、ツイッター、文字データ放送等を活用した文化情報の提供			市広報紙等への掲載回数	月2回	現状維持	A	地域文化の存在として、幅広い層に周知する	収蔵資料等のデジタル化、データベース化を推進していきたい。
谷崎潤一郎記念館	長岡 一美	20, 22	鑑賞機会の提供 学習機会の提供	・広報紙、ホームページ、文字データ放送、谷崎潤一郎新聞等を活用した文化情報の提供 ・収蔵資料等目録調製			市広報紙等への掲載回数	月2回	現状維持	A	同上	同上

【担当課評価の集計】

【主な施策概要】	取組数	評 価				指 標			
		S	A	B	C	設定割合	増加	減少	現状維持
		20 情報の収集等	2	0	2	0	0	100%	0
21 利便性の向上	2	0	2	0	0	50%	1	0	0
22 文化にかかわる資料、作品、情報等の保存	1	0	1	0	0	100%	0	0	1



# 文化振興基本計画評価票

<b>基本理念</b>	1 文化の担い手である市民一人一人の自主性及び創造性が尊重されなければならない。 2 歴史及び風土に培われてきた地域の伝統的な文化が、市民の共通の財産としてはぐくまれ、将来にわたり引き継がれるよう配慮されなければならない。 3 文化を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であることにかんがみ、市民が等しく文化活動を行うことができるような環境の整備が図られなければならない。 4 文化の多様性が尊重されるとともに、地域における多様な文化の共生が図られるよう配慮されなければならない。 5 文化が地域間における相互理解を深める上で重要な役割を果たすことにかんがみ、文化に関する情報を広く国内外に発信するなど、文化交流が積極的に推進されなければならない。
-------------	---

<b>基本目標</b>	1 ゆとりや潤いなどの実感できる心豊かな市民生活の実現 2 個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくりの実現
-------------	--

<b>施策の柱</b>	<b>③ 文化の振興と再生を図るための環境づくりの推進</b>
-------------	---------------------------------

<b>基本的な施策</b>	<b>エ 文化活動に対する支援</b>
---------------	---------------------

**【主な施策概要】**

<b>23 活動している個人や団体に対して、より重点的・効果的な支援の充実</b>
---

- ◆ 芦屋市芸術文化活動助成事業の実施
- ◆ 地域文化活動補助事業の実施

**【担当課評価】**

S : 計画以上の成果をあげた B : ある程度達成できた (80から50%)  
 A : 達成できた (100~80%) C : 達成できていない (50~0%)

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況		掲載広報	連携した団体	指標		自 己 評 価	課 題	今後のビジョン
				24年度	25年度			H24実績	今後の目標			
市民参画課	福島 貴美	23	発表の場の提供	芦屋市民の芸術文化活動の助成を行い、また、顕彰又は表彰することにより、芸術文化活動の一層の振興を図った。				申請団体の数や事業数	7件 19万円	現状維持	A	今後も、継続的に事業を行っていきたい。
生涯学習課	長岡 一美	23	人材育成	【芦屋市文化遺産継承・活性化事業の実施】(再掲)実施計画を策定し、平成25年度文化芸術振興費補助金(文化遺産を活かした地域活性化事業)交付を申請した。事業を実施する実行委員会の構成団体は、鳳輦・だんじり・将棋・能楽・華道の団体である。補助金額は、9,492千円。		他団体		事業の申請件数	1件	現状維持	実施中	補助事業がいつまで継続するかが不明である。  今後も補助事業が続くのならば、継続して市内の文化遺産を継承する団体に対して活動を支援できるように、事業を継続したい。
生涯学習課	長岡 一美	23	市民活動の活性化	【社会教育関係団体等に対する補助金】文化活動事業補助として、コミスク10団体及び社会教育関係団体等11団体に補助金を交付している。(コミスク2,548千円・社会教育関係団体等764千円)		他団体		補助金交付金額	3,312千円	現状維持	A	補助金が交付目的に従い、公正かつ効率的に使用されていることを確認するため、交付団体に対して会計監査を実施し、交付金額について必要があれば精査していく必要がある。

**【担当課評価の集計】**

【主な施策概要】	取組数	評 価				指 標			
		S	A	B	C	設定割合	増加	減少	現状維持
活動している個人や団体に対して、より重点的・効果的な支援の充実	3	0	2	0	0	100%	0	0	3

# 文化振興基本計画評価票

<b>基本理念</b>	1 文化の担い手である市民一人一人の自主性及び創造性が尊重されなければならない。 2 歴史及び風土に培われてきた地域の伝統的な文化が、市民の共通の財産としてはぐくまれ、将来にわたり引き継がれるよう配慮されなければならない。 3 文化を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であることにかんがみ、市民が等しく文化活動を行うことができるような環境の整備が図られなければならない。 4 文化の多様性が尊重されるとともに、地域における多様な文化の共生が図られるよう配慮されなければならない。 5 文化が地域間における相互理解を深める上で重要な役割を果たすことにかんがみ、文化に関する情報を広く国内外に発信するなど、文化交流が積極的に推進されなければならない。
-------------	---

<b>基本目標</b>	1 ゆとりや潤いなどの実感できる心豊かな市民生活の実現 2 個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくりの実現
-------------	--

<b>施策の柱</b>	<b>③ 文化の振興と再生を図るための環境づくりの推進</b>
-------------	---------------------------------

<b>基本的な施策</b>	<b>オ 文化活動に対する民間支援活動の促進</b>
---------------	----------------------------

**【主な施策概要】**

**24 文化活動に対する個人や企業等からの寄附や支援の促進**

- ◆ 寄附税制等に関する周知
- ◆ 文化団体への寄附の促進
- ◆ 企業メセナ等に関する情報の提供

**【担当課評価】**

S : 計画以上の成果をあげた B : ある程度達成できた (80から50%)  
 A : 達成できた (100~80%) C : 達成できていない (50~0%)

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況		掲載広報	連携した団体	指標		自己評価	課題	今後のビジョン
								H24実績	今後の目標			
市民参画課	福島 貴美	24	寄附の促進					利用者数	1,351団体 5,990人	現状維持	A	今後も、継続的に事業を行っていきたい。

**【担当課評価の集計】**

【主な施策概要】	取組数	評価				設定割合	指標		
		S	A	B	C		増加	減少	現状維持
		24 文化活動に対する個人や企業等からの寄附や支援の促進	1	0	1		0	0	100%

# 文化振興基本計画評価票

基本理念	1 文化の担い手である市民一人一人の自主性及び創造性が尊重されなければならない。
	2 歴史及び風土に培われてきた地域の伝統的な文化が、市民の共通の財産としてはぐくまれ、将来にわたり引き継がれるよう配慮されなければならない。
	3 文化を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であることにかんがみ、市民が等しく文化活動を行うことができるような環境の整備が図られなければならない。
	4 文化の多様性が尊重されるとともに、地域における多様な文化の共生が図られるよう配慮されなければならない。
	5 文化が地域間における相互理解を深める上で重要な役割を果たすことにかんがみ、文化に関する情報を広く国内外に発信するなど、文化交流が積極的に推進されなければならない。

基本目標	1 ゆとりや潤いなどの実感できる心豊かな市民生活の実現
	2 個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力のあるまちづくりの実現

## 施策の柱 ③ 文化の振興と再生を図るための環境づくりの推進

### 基本的な施策 カ 顕彰の実施

#### 【主な施策概要】

#### 25 顕彰の実施

- ◆ 市民文化賞による表彰の実施
- ◆ 富田碎花賞顕彰事業の実施

#### 【担当課評価】

S：計画以上の成果をあげた B：ある程度達成できた（80から50%）  
A：達成できた（100～80%） C：達成できていない（50～0%）

課名	課長名	施策概要No.	事業の目的	24年度・25年度の取組状況	掲載広報	連携した団体	指標		自評 己価	課題	今後のビジョン	
							H24実績	今後の目標				
市長室	今石 佳太	25	鑑賞機会の提供	【芦屋市民文化賞】 以下の基準をもとに毎年受賞者の選定を行っている (1) 芦屋市民文化賞にふさわしい活動を行っていること。 (2) おおむね10年以上の活動歴があること。 (3) 主に市内での活動を重視すること。 (4) 国（叙勲）、県（文化賞）等の受賞歴がないこと。	市広報紙、あしやトライあんぐる				B	潜在候補者の把握	候補者の対象を広く照会し、潜在候補者の積極的な発掘を行うことにより、市民文化賞に最適な受賞者の選定を行い、本市における更なる文化の向上発展を図りたい。	
生涯学習課	長岡 一美	25	富田碎花の業績を顕彰	【富田碎花賞の贈呈】 民衆派詩人「富田碎花」の業績を顕彰するため、富田碎花顕彰会との共催により、富田碎花賞の贈呈を実施している。 全国の詩を愛好する方々を対象に、5月から7月までの期間募集し、応募のあった詩集について富田碎花顕彰会で、選考決定された詩集について、富田碎花賞を贈呈している。応募詩集数は、平成24年度が93詩集、平成25年度が90詩集である。			詩集の応募数	93詩集	増加	B	富田碎花と繋がりを持つ詩人の減少	より多くの機関に富田碎花賞の募集の広報に努めるため、開催決定を早く行い、より早く連絡することで、開催告知と応募期間を長く取れるようにしたい。

#### 【担当課評価の集計】

【主な施策概要】	取組数	評価				指標			
		S	A	B	C	設定割合	増加	減少	現状維持
		0	0	2	0				
25 顕彰の実施	2	0	0	2	0	50%	1	0	0